

二上山の自然⑦

二上山の野鳥

写真・文 辰井久時（日本野鳥の会会員）



花鳥風月と言われるように、鳥の姿を見たり声を聞いたりすることは、私たち日本人が得意とする生活文化の一つです。あるときは詩の中にそのしぐさや声を詠い込み、またあるときは絵画のモチーフとして描きつづけてきたのは、すでにご存知のとおりです。

私たちの身近には二上山や、市内に点在するため池などがあり、鳥たちにとって格好の生息条件をつくりだしています。

今回は、二上山に見られる野鳥を紹介いたします。

目をこらして見てください。耳をすまして聞いてください。鳥たちのメッセージが、あなたの心に伝わってくるはずですよ。

ヒヨドリ(スズメ目/ヒヨドリ科)

公園や住宅地など身近なところで最も目にする鳥で、ピイピヨロ、ピーピーピー、ピーヨピーヨなど、いろいろな鳴き声をだす。鳴き声は派手だが、体の色は全体に灰色と地味で、大きさはスズメより大きい。

最近ではバードウォッチングという言葉が定着してきました。少なくとも自然の中で野鳥たちは懸命に生きて



います。その姿や声に出会う喜びが、バードウォッチングの楽しさの一つです。二上山にも数多くの野鳥が生息しています。一年中見ることが出来る鳥や、

渡り鳥のように一定の季節しか会えない鳥たちもいます。はじめはなかなか見つけられないこともあります。目と耳に神経を集中させ、声や音がすればじつと耳をすませて鳥影をさがしてください。双眼鏡があればなおいいでしょう。拡大して見る姿は格別の美しさがありますし、そのかわい

いしぐさもよくわかります。川や池などにはときどきカワセミが現れることがあります。コバルトブルーの鮮やかな羽根と長くちばしを持つその姿はだれもが感動する人気の高い鳥です。セキレイの仲間も水

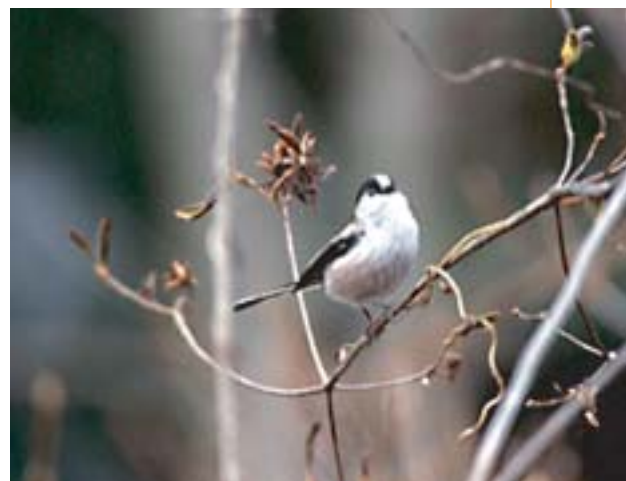
メジロ(スズメ目/メジロ科)

一見ウグイスに間違えられることもあるが、名前のように目のまわりに白い輪があることで区別はできる。庭などでも、ジュースやミカンを餌台に置いてやるとやってくる。

辺が好きです。長い尾を上下に振りながら歩いています。特にキセキレイは名前のとおり腹部が黄色くとてもきれいな鳥です。

春から初夏にかけては繁殖期で鳥たちはよくさえずります。ウグイスなどは皆さんよくご存知だと思います。夜になるとフクロウの仲間のアオバズクの「ホッホー、ホッホー」という声が聞こえるかもしれません。木のてっぺんではホオジロがよくさえずっています。

ネクタイをしめた様な姿のシジュウカラ、綿のかたまりの様な小さな体に長い尾をつけたエナガ、キツツキの仲間の小さなコゲラはときどき、木をついてびっくりするぐらゐの大きな音をたてます。メジロやヒヨドリは花の蜜



エナガ(スズメ目/エナガ科)

背羽は淡いブドウ色で、喉から腹部にかけては白い。平地から山地の林、樹木の多い住宅地や公園に見られ、シジュウカラの群れに混じって行動することもある。

ホオジロ(スズメ目/ホオジロ科)

スズメより少し大きめで、胸と腰部あたりはレンガ色の羽根に覆われている。平地から山地の開けた場所を好み、広く全国に分布している。



カワセミ(ブッポウソウ目/カワセミ科)

翼は黒っぽく、薄い青色の斑点があり、光の具合で緑色や青色にも見える。木の枝から直接水面に飛び込んで、小魚や水生昆虫類をとらえ餌にする。河川や湖沼、池などで見られる。



カワラヒワ (スズメ目/アトリ科)

外見はほとんどスズメと同じだが、体つきがポッチャリしている。ヒマワリの種が好物で、庭の餌台に置いてやると太いくちばしで器用に割って食べる。



が好きでよく桜やツバキの蜜を吸っていることがあります。また、ヒヨドリはモチノキなどの大きな木の実を丸飲みしますし、ヤマガラは木の実を器用に両足で押さえてくちばしで割って食べています。

二上山のまわりの田畑でもサギの仲間やケリ、ムクドリ、ヒバリ、カワラヒワなどを見ることが出来るでしょう。

その姿やしぐさはいつ出会っても見飽きることはありません。見なれた鳥でも双眼鏡で見ているとおもしろい行動をすることがあります。見た鳥を本や図鑑で調べ、羽根の模様や鳴き声で見分けることが出来るようになれば、世界は二倍にも三倍にも広がります。そして、その美しさやかわいしぐさに感動することでしょう。

ムクドリ (スズメ目/ムクドリ科)

体全体は灰褐色で、額と顔に白色部分がある。一年を通して群れで生活するものが多く、平地から山地の市街地、農耕地などで見ることが出来る。



コゲラ (キツツキ目/キツツキ科)
体全体が白と三げ茶のまだら模様。スズメよりわずかに大きい。キツツキの仲間では一番小さい。木の皮の中の虫を餌とし、全国各地に見られる。

ヤマガラ (スズメ目/シジュウカラ科)

スズメより小さく、白と黒と褐色がかかった羽根に包まれている。ツツビー、ツツビーとさえずり、昆虫や木の実などを餌にしている。また、木の実を土中や樹皮の隙間に隠して、越冬中の食物として貯蔵する習慣がある。